

平成30年度

第36回 福祉体験

作文コンクール

優秀作品集



©aichikenshakyo

社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会

## はじめに

本会では、昭和五十八年から「福祉体験作文コンクール」を実施しています。本年度は、小・中・高等学校あわせて三百四十二校、六百八十九名の児童・生徒の皆様からご応募をいただきました。ご応募いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

今回も、日常生活の中での様々な経験や家族などとの身近な体験、ボランティアを通して気付いた地域の福祉課題等が、素直な気持ちで作文に表されておりました。

近年、様々な場面において児童・生徒などの若い世代が多様なボランティア体験や福祉活動に取り組む機会が増え、福祉やボランティアへの理解・関心が広まってきております。本会といたしましても、今後、地域福祉活動への支援や福祉教育活動への充実に向けて、より一層取り組んで参りたいと考えております。

このたび、選考委員会において厳正なる審査をし、二十八編の入選作品が決定されました。ここに、本年度の優秀作品集を作成しましたので、今後の福祉教育活動の推進にお役立ていただきたいと思います。

最後に、審査にご協力くださいました各委員の方々、作品の応募にご協力くださいました各小中高高等学校、各市町村社会福祉協議会、さらにはボランティア関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成三十一年二月

るひいおばあちゃんと、かいごをしているおじいちゃんおばあちゃんのように元気がどうかをかくにんします。それを四十五けんの家でしているそうです。大へんなんだなと思いました。

ひいおばあちゃんをかいごしている多くのおばあちゃんにも話を聞きました。ひいおばあちゃんのお世話で心配なことは、ひいおばあちゃんが夜中にすっかりねているかということだそうです。ひいおばあちゃんは、二年くらい前に夜中に家を出ていってしまっただけで、歩いていたら転んでこっせつして歩けなくなり、きゆうきゆう車ではこばれました。だから、おばあちゃんは夜にそのことが心配でねられないことがあるそうです。

家族の人にとってふくしのサービスは大切です。いっしょにすんでいるおうちの人は、デイサービスに行っている間にせんとくやそうじなどの家のことができたり、休けいもできます。おじいちゃんとおばあちゃんがかいごしている様子を見て、大へんなんだなと思いました。

ケアマネージャーさんの話を聞いて、ひいおばあちゃんがデイサービスでどんなことをしているかや、今まで知らなかったことを知ることができました。今日は、ろう人ホームに行つて、ひいおばあちゃんがデイサービスで楽しくすごしている様子を見てみたいです。



## 子どもたちのお世話をして感じたこと

豊橋市立汐田小学校四年

安原 成海

私はいつも学校が終わると児童クラブに帰っています。ふだんの生活では、宿題をやったり、マンガを読んだり、屋上でサッカーをしたりしてすごしています。

私の通っている児童クラブは、明照保育園という子ども園の中にあります。そこには、0才から五才までの園児が全員で二百六十人ぐらいいます。

私たちは夏休みに入ると、長い時間を児童クラブですごすことになるので、交代で園児の保育をお手伝いさせてもらっています。私は夏休みに入つてすぐに0才児のクラスへお手伝いに行きました。0才の赤ちゃんは、まだ自分で立てない子、なれていない人を見ると泣いてしまう子、くいしんぼうでお友だちのおやつを食べそうになる子など、いろいろな子がいます。そこで私たちは、ふとんをたたむこと、おやつの前、いっしょに手を洗うに行くこと、おやつを食べさせてあげることなどのお手伝いをします。赤ちゃんは、まだうまくしゃべれないけれど、「あーあ。」「うん。」などとお話してくれるところがとてもかわいいです。同じ赤ちゃんのクラスに何回かお手伝いに行つてみると、赤ちゃんがしゃべらなくても、嬉しそうに笑う表情や、楽しそうにはしゃぐ動作で、赤ちゃんの気持ちや何をしたいのかがわかるようになって仲よくなれます。

私が赤ちゃんのクラスへお手伝いに行きたいと思ったきっかけは三つあります。一つ目は、一生けん命階段を上がる赤ちゃんを保育園の先生たちがお世話をしている姿を見て、私もお手伝いしたいなと思ったからです。二つ目は、私が園児の時に牟呂中学校の生徒が遊びに来ていっぱい遊んだ後、

「楽しかったよ、ありがとう。」  
と言ってくれたのが嬉しかったことです。三つ目は、保育ボランティアに来ていた高校生が、

「めっちゃかわいかった。」  
と言っていたので、「赤ちゃんってそんなにかわいいのかな。」とお手伝いしてみたいと思いました。

このようなことから、だれかにやさしくしている人を見たり、自分がだれかにやさしくしてもらったりすると、人にやさしくしたい、人を助きたいという気持ちにつながると思いました。

明照保育園のような、小中高生や大学生、ボランティアの人が子どものお世話をしてくれるけんがでできる保育園や幼稚園、子ども園がふえたら、人にやさしくしたい、人を助けたいという人がふえると思います。



## 「幸せ」の運び方

豊橋市立幸小学校五年

中島

咲月

家となりになできた施設は、たくさんの方が利用していて、いつも楽しそうでにぎやかな声があります。施設が出来た時に何をしている場所かなど思っていると、お母さんが、

「障がいのある人が生活する福祉施設だよ。」

と、教えてくれました。最近のお父さんの仕事も福祉にかかわることが増えたので、私は福祉ってなんだろうと考えるようになりました。

本で「福祉」を調べてみたら、「ふだんのくらしを幸せに」と書いてありました。どんなことなのか不思議に思っていると、お母さんが、

「福祉村で、親子福祉体験会があるよ。」

と教えてくれたので、お母さんと妹と参加することにしました。

福祉村は、想像以上に大きく本場に一つの村でした。福祉村を利用する人は、さまざまな障がいがある人や、お年寄りの人です。

福祉村の親子体験は、車椅子バスケット体験や、介護機器体験、高れい者疑似体験、福祉車両体験などができました。全部の体験に参加してみても、本当にいろんな人が助けを必要としていて、そして施設のたくさんの方が他の人を幸せにしているんだと感じました。

私には、ひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんはずごく元気で、働き者でどこまでも自転車で行ってしまいます。ご飯ももりもり食べて、いつも笑顔で優しいです。体験のなかで高れい者疑似体験をやったときに、「うそだ。」と思いました。自分の想像していたこととは全然